



2016 FIM世界耐久選手権シリーズ第3戦
“コカ・コーラ ゼロ” 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第39回大会

三重県 鈴鹿サーキット (1周=5.821km)

天候：7月28日 (木) 晴れ 路面：ドライ

7月29日 (金) 晴れ 路面：ドライ

7月30日 (土) 薄曇り 路面：ドライ

7月31日 (日) 快晴 路面：ドライ

観客動員数 (4日間合計) : 124,000人

公式予選：7番手 (タイム：2分08秒426)

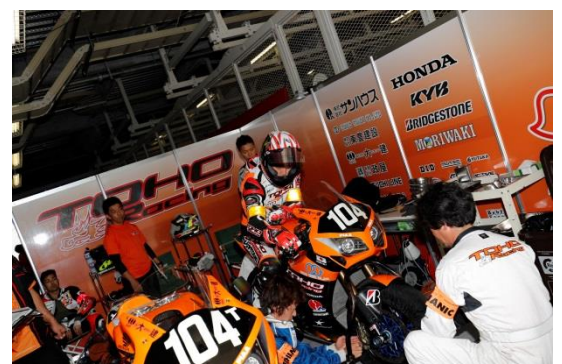
TOP10トライアル：8番手

決勝：11位 (211周)

最後まであきらめず追い上げ11位でゴール

東広島のTOHO Racingとして初参戦した2011年から6回目のチャレンジとなる2016年。今年もエース・山口辰也を中心に昨年に引き続きMotoGPロードレース世界選手権Moto2クラスに参戦しているラタパーク・ウィライロー、そしてスーパースポーツ世界選手権のジノ・レイを起用して臨んだ。

しかし、ラタパークは、左手の古傷を手術したため事前テストに参加できず、ぶっつけでレースウィークを迎えていた。鈴鹿8耐、初参戦となるジノは、事前テスト初日にヘアピン手前の110Rで転倒し、右足を痛めてしまう。何とか翌日にマシンに乗ることができたが、本調子ではなかった。ラタパークは、本当に本番に間に合うのか？ ケガをしたジノと2人で走ることになればエース山口にかかる負担は大きい。そんな状況の中、山口は、2人が乗りやすいバイク作りに専念。チーフメカニックの戸井田、KYBサスペンション、ブレンボブレーキのスタッフと相談しながらマシンを仕上げた。



レースウィークに入ってから、まず山口がマシンを確認し、ラタパークにマシンに慣れ
てもらうために周回を重ねて行く。昨年、TOHO RacingのCBR1000RR1に乗っているラタパーク
だったが、ちょうど1年経っており、Moto2とのスイッチに苦労していた。それでも走る度に
タイムを上げ、1000ccのライディングを思い出して行った。

公式予選は、まず第1ライダー枠でジノが出走。2分09秒117を1本目にマーク。ラタパーク
は、第3ライダー枠で走り、2回目に自己ベストを更新し、2分10秒226を記録した。第2ライ
ダー枠でのアタックとなった山口は、2回目のセッションで2分08秒426をマークし、総合7
番手につけ、TOP10トライアルへの進出を決めた。

TOP10トライアルは、まずジノがコースインし、1周のみのタイムアタックを行い2分09秒
043と好タイムをマーク。山口もミスない走りを見せ2分08秒716を出す。ポジションを一
つ落とし8番手グリッドから決勝はスタートすることになった。ル・マン式スタートだけに
グリッドは、あまり重要ではない。逆にル・マン式スタートを山口は得意としているだけに
ジャンプアップを狙っていた。

11時30分に予定通りレースはスタートが切られた。まずまずのスタートを切った山口は、
6番手でオープニングラップを終える。その後、何度かポジションを入れかえ、7周目に前を
走っているライダーが転倒すると6番手につけ周回を重ね、25周目に1度目のピットインを行
いジノにライダー交代する。ジノも好タイムで周回を重ね、5番手をキープしていたのだが
…。37周目のヘアピンで痛恨の転倒。再スタートし、ピットに戻ると、スタッフはマシンの
修復にかかる。ジノは、そのまま再スタートしたがっていたが、一度クールダウンしてもら
うためにも、ラタパークがコースに戻って行く。この時点で48番手と大きく遅れてしまっ
たが、徐々にポジションを回復して行き、レースの折り返しとなる4時間が経過した時点では
20番手まで浮上していた。3人のライダーは、あきらめることなく追い上げて行き、最終的
に11位でゴール。この結果が、2017年の戦いにつながって行くのだ。



第1ライダー 山口辰也

「ジノは事前テストで、ラタパーも腕を負傷していたので、なるべく乗りやすいマシンにしようと仕上げて来ました。レーウイクに入ってから、ほとんどマシンはいじらず走り込む方向でした。ちょっとしたトラブルもあり、思うように予選でタイムを出せなかったことは悔しいですが、ピットワークも、チームが頑張ってくれて練習してくれていましたし、それぞれがベストを尽くした結果です。この経験を全日本後半戦、そして来年の鈴鹿8耐に生かして行きたいですね。今年も多くの応援、本当にありがとうございました」



第2ライダー ジノ・レイ

「ずっと鈴鹿8耐には参加してみたいと思っていたので、今回TOHO Racingからオファーがあったときは、すぐにOKと返事をしました。いきなり転倒しケガをしまいチームに迷惑をかけてしまったのに、手厚くサポートしてくれました。決勝でも、何か分からないうちに転倒してしまい、申し訳ない思い、悔しい思いでいっぱいでした。鈴鹿8耐は、とてもエキサイティングですが、とても難しいレースです。そんなレースに参加できて、とても幸せでした」



第3ライダー ラタパーク・ウィライロー

「今年もTOHO Racingに誘っていただき、すごくうれしかったのですが、古傷の手術があり事前テストに参加できず、ぶっつけ本番になってしまいました。最初はMoto2との乗り換えに戸惑いましたが、昨年のことを思い出し、徐々に安定したペースで走れるようになって行き、決勝で一番いい状態で走ることができました。サポートしてくれたTOHO Racingの皆さんに感謝します」

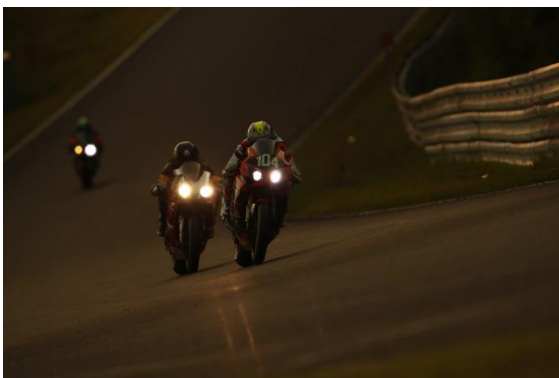


チーフメカニック 戸井田剛コメント

「ジノがケガをしてしまい、ラタパークは、事前テストに参加できない状態で、一時はどうなるかと思いましたが3人とも、いいペースで走ってくれました。決勝での転倒は残念でしたが、トップ3は速かったので表彰台に上がるのは難しいと思いました。表彰台を狙うためにも、さらにチーム体制を強化し、戦闘力の高いマシン作りを考えていかなければならないですね。今年も応援ありがとうございました」

総監督 福間勇二コメント

「まずは、鈴鹿8時間耐久レースに参戦するに当たり、本年度もご支援、ご協力頂きました全てのスポンサー様、地元東広島の皆様、ご声援くださった皆様に心より厚く御礼申し上げます。本年度は3人のライダーのうち、2人が怪我を抱えており事前テストも十分でない部分もありましたが、レースウィークに入り、ライダーもスタッフも一丸となって決勝へ向けて挑みました。決勝では転倒がありましたが、最後まで諦めず粘り強く挑み続けました。この経験を今後活かすべく、チーム一同頑張っ参ります」



株式会社TOHO
TOHO Racing
担当：野口